

# 年金積立金管理運用独立行政法人

Government Pension Investment Fund

Press Release

報道関係者 各位

平成26年2月28日(金)  
年金積立金管理運用独立行政法人  
企画部 企画課  
(担当) 課長 もり しんいちろう 森 新一郎  
(電話直通) 03(3502)2486  
(F A X) 03(3503)7398

## 国内外の機関投資家との共同投資協定に基づく インフラ投資の開始について

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は、27日、株式会社日本政策投資銀行（DBJ）及びカナダ・オンタリオ州公務員年金基金（OMERS）との共同投資協定に基づき、インフラストラクチャーへの投資（インフラ投資）を開始することになりました。運用は投資信託を通じて行い、今後、適切な投資案件が選定された際に、GPIFも資金を拠出することになります。（詳細は別紙）

インフラ投資は、海外の年金基金等では有力な運用手法となっており、長期にわたり安定した利用料収入が得られるとともに、株式市場等の価格変動の影響を受けにくいことから、債券や株式との分散投資により、年金財政の安定に寄与する効果が期待できます。また、インフラ投資に豊富な実績を持つDBJ及びOMERSとの共同投資により、GPIFの投資能力の向上やリスク管理の高度化を図ることができるメリットがあります。

GPIFは、今後とも、投資能力の向上やリスク管理の高度化を図りつつ、年金積立金の安全かつ効率的な運用に努めてまいります。

## 国内外の機関投資家との共同投資協定に基づく インフラ投資の開始

### 背景

- 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)では、これまでもインフラ投資等について調査を行ってきたが、平成24年度に実施した「オルタナティブ投資スキームについての調査研究」において、
  - ① 流動性の犠牲に伴うプレミアムの獲得、分散投資による効率性の向上が期待できる
  - ② インフラ投資等を目的とする投資信託に直接投資する方法が考えられる
  - ③ インフラ投資等の運用実績を蓄積した国内外の機関投資家との連携は、その投資能力の活用や知見の吸収の観点から検討に値することが報告され、運用委員会でも実施の必要性が議論されてきた。

#### (参考)

インフラ投資は、電力発送電、ガスパイプライン、鉄道などから、長期にわたり安定した利用料収入等を見込む投資である。長期の投資家にとっては、

- ① 安定したインカムゲインが得られる点で債券に類似したキャッシュフローを持っている
- ② 利回りが一般の債券より高い
- ③ 株式市場等の価格変動の影響を受けにくい

といったメリットがあり、海外の年金基金等では有力な運用手法となっている。

・オンタリオ州公務員年金基金(OMERS)のインフラ投資の収益率 11.0%(2009-13年の年率, 現地通貨ベース)

## インフラ共同投資

- こうした状況を踏まえ、今般、インフラ投資について豊富な実績を持つ株式会社日本政策投資銀行(DBJ)及びカナダのオンタリオ州公務員年金基金(OMERS)と共同で、先進国の電力発送電、ガスパイプライン、鉄道などのインフラに投資する共同投資協定を締結し、投資信託を通じて、OMERSが発掘するインフラに投資することとした。
- 今回の共同投資スキームでは、投資信託の運用者であるニッセイアセットマネジメント株式会社(以下「ニッセイアセット」)が、マーサー・インベストメンツ(以下「マーサー」)の助言を得て、OMERSが発掘するインフラ投資案件への参加可否を判断する。なお、ニッセイアセットは投資信託を通じたオルタナティブ資産等の運用において豊富な実績があり、マーサーのグローバルインフラ投資チームはインフラ事業の評価を世界的に展開している。「インフラ共同投資のスキーム(概要)」を参照)
- 今後、適切な投資案件が選定された際に、GPIFも資金を拠出することになる。投資規模は、5年程度をかけて最大総額約27億米ドル(約2,800億円)(GPIFの投資資産額(平成25年12月末で約129兆円)の約0.2%)
- また、今回の共同投資は、安定したインカムゲインが見込まれることから、基本ポートフォリオ上は「外国債券」に位置付け、自家運用の一つとして管理するとともに、共同投資協定に基づき、DBJ及びOMERSの豊富な投資経験を吸収し、GPIFの投資能力の向上やリスク管理の高度化を図ることとしている。

# インフラ共同投資のスキーム(概要)

共同投資協定の締結

